any

ars nova yamaguchi

「エニー」

Winter 2024
JAN.–MAR.
126

映画館の「記憶」と「記録」

特集
展覧会
「Afternote
山口市 映画館の歴史」

any
ars nova yamaguchi
126
Winter 2024 JAN.–MAR.
令和6年1月1日発行
発行:公益財団法人山口市文化振興財団
本誌記事の無断転載を固く禁じます。

C O N T E N T S

特集
03 映画館の「記憶」と「記録」
展覧会
「Afternote 山口市 映画館の歴史」

08 any通信
◎アーティストボイス 坂口綱男(写真家/著述業)
◎お先に試写しました 「走れ! 走れ走れメロス」(監督:折口慎一郎)
◎読書の窓 斜線堂有紀『楽園とは探偵の不在なり』
◎映画と 書籍『昭和の映画絵看板』
◎any music Vulfmon『Nice to you』

ピックアップイベント
10 山口情報芸術センター
あそべる図書館—Speculative Library
ともに学び、ともにあそぼう

中原中也記念館
第21回テーマ展示 空の歌
中也がうたう「空」とは?

山口市民会館
小林愛実ピアノ・リサイタル
小林愛実、等身大の音色を山口で

小心ズ「ミスしゃっくりの幸せな一日」
何気ない日常が愛おしくなる! ゆかいなサイレントコメディ

13 ハンガリーの小さな舞台
ミクロポディウム人形劇

14 イベントカレンダー 1〜3月
INFORMATION

any(エニー)とは、ラテン語の「新芸術(=ars nova)」と「山口(yamaguchi)」の頭文字を組み合わせた言葉です。

かつて山口市内には10館以上の映画館が存在していたという。
映画館は街にとってどんな存在だったのか? それらの映画館はなぜ消えてしまったのか?
そんな疑問を胸に「山口市の映画館の歴史」をたどる展覧会が企画された。
YCAMスタッフと、現代美術作家の志村信裕、外部リサーチャーとともに
山口市の街や人々のなかに眠る「記憶」と「記録」を丁寧に掘り起こしながら
準備を進めてきた本展。展覧会がオープンする直前の11月中旬、
YCAMシネマ担当の前原美織氏と、志村氏に展覧会についてお伺いした。

映画館の「記憶」と「記録」

特集
展覧会「Afternote 山口市 映画館の歴史」
志村信裕 × 前原美織 インタビュー

1991年まで山口市内にあった金竜館
田中絹代来館時の客席の様子(1937年) 村藤直子蔵

金竜館（1954年） 山口市役所蔵

有楽座（1956年） 個人蔵

山口松竹（1954年） 山口市役所蔵

山口東映（1954年） 山口市役所蔵

山口市にかつてあった映画館はどんな風に時間を過ごして、どんな風になくなってしまったのか。

今回なぜこの展覧会を企画しようと思ったのでしょうか？

前原　YCAMでは「ワイカムシネマ」として、休館日以外ほぼ毎日映画を上映しているにも関わらず、映画館にカウントしていない方もいて…。県庁所在地に映画館がないのは山口とあと1県だけと言われることも。じゃあ、山口市にかつてあった映画館はどんな風に時間を過ごして、どんな風になくなってしまったのか、YCAMが20周年を迎えるにあたり、映画館の視点から山口市の歴史を振り返ってみようと思ったのがきっかけですね。

あと、YCAMの開館当初には、多くの方に助けてもらいながら映画を上映したと聞いています。山口市で最後の映画館「スカラ座」の方から35mmフィルムの扱い方、上映技術を継承して、いまここにYCAMが存在している、そのことをもっと知ってもらいたいな、というのもありました。

今回、志村さんがコラボレーターとして選ばれたのはどういった経緯で？

前原　展覧会の企画は私にとって初めてだったので、どう進めたらよいか、YCAMの別のスタッフに相談した際に、現代美術作家の志村さんを推薦してもらいました。志村さんは過去3年ほど山口に滞在されていて、そのときまさにスカラ座の方から35mmフィルムの映写技術を学んでYCAMで映写の仕事をしていた経験があります。また、山口県萩市の見島の牛を題材にした志村さんの映像作品「見島牛」を見たときに、その場に風景はないけれども、その風景をちゃんと頭の中で回想できる作品だと感じて、今回の企画も一緒に何かを形にしてもらえたらと思い、お願いしました。

実際に志村さんは今回どういった役割をされているのでしょうか？

志村　かつてあった映画館を題材とした展覧会を開催するというのは決まっていましたが、具体的に何を見せるのかというアウトプットは決めずに企画がスタートしました。まずはYCAMのみなさんと一緒にリサーチしながら、展覧会で「何ができるのか」を考えるというところから出発して、その最初から関わらせてもらっています。自分がこれまでに映像制作だけでなく、空間全体を使ったインスタレーションも手掛けてきたので、最終的には新作の映像作品の制作とあわせて、展覧会全体の構成も一緒に考えさせてもらいました。

展覧会のタイトル「Afternote」にはどんな意味が込められているのですか？

志村　2021年にこの企画が立ち上がり、22年の1年間はリサーチに専念してきたのですが、僕が月に1度の頻度で山口に来て、YCAMの前原さんたちと過去の映画館についてリサーチしていきました。そうしていくうちに、自分たちが何をやっているのかがおぼろげに見えてきたんです。いわゆる創作の現場というのは、ある才能を持った芸術家がその人の個性を発揮するものだと思われていますが、今回の創作の資源は、作る側（芸術家）ではなくて、すべてこの街や、ここに住んできた人々の中に眠っている。ゼロから新しいものを作り出すのではなく、かつてあったものや今も残されているものを現代の視点からどう編集して、解釈するのかが重要なのではないかと考えました。

あるとき、僕たちは山口市にかつてあった映画館の「あとがき」を作っているんじゃないかと気が付いたんです。その瞬間、「Afternote（アフターノート）」という言葉が頭の中にふっと降りてきました（笑）。当初は新作として発表する映像作品のタイトルのつもりでしたが、気が付いたら展覧会自体のタイトルにもなっていました。「note」というのはメモするためのノートだけではなく、「消息」や「気配」という意味もあるんです。かつてあった映画館がなくなった後に残っているものは何なのか。誰も気にもとめていなかった「その後」に焦点を合わせて、可視化されてこなかった映画館の消息を見せる展覧会、それが「Afternote」です。

リサーチはどのように進めていったのでしょうか？

前原　最初、参考にしようとインターネットも見ましたが、そこにあるのは文章だけで、映画館が本当はどういう存在だったのか、ということまでは分かりませんでした。なので、自分たちの目と足で調べようと、映画の黄金期といわれる昭和35（1960）年の地図を参考に歩き始めました。集めてきた資料は大きく「記録」と「記憶」の2つに分けることができます。「記録」に関しては、山口市にある文書館や山口県立図書館の新聞のアーカイヴにあたったり、図書館に直接問い合わせたり、歴史民俗資料館や博物館に保存されている資料を調べたりしました。

志村　「記憶」の部分については、当時の映画館に通っていたり、映画館での体験を今でも覚えているという人に実際に話を聞きに行きました。インタビューした人の数は200名を超えています。様々な方の「記憶」を掘り起こすなかで、新しい「記録」資料が見つかることも。幸運なことに映画館の関係者や、家族が映画館を経営していたという方にもコンタクトが取れて、やはりその方々との出会いが大きかったです。博物館などにあってもおかしくないようなレベルの資料が見つかって…。

前原　制作中に、一度行き詰ってしまったことがあったのですが、そこで現れたのが山口市中心商店街にあった「金竜館」の創設者である村藤金槌（きんつち）さんのお孫さんでした。以前ワイカムシネマのお客さんからも金竜館の話は聞いてはいたのですが、なかなか出会えず…。でも、奇跡的なご縁で、村藤さんに行きつくことができ、保存されていた、たくさんの資料と出会えたのです。本当に運が良かったですよね。

志村　もし村藤さんと会えないまま展覧会が始まっていたらと思うとゾッとしますね。チラシの表紙で使用している写真（本紙p. 2-3掲載）も村藤さんからお借りしたものです。

前原　この1枚で1時間は語れるくらい貴重な写真です。下関市出身の俳優・田中絹代が金竜館に来たときの写真です。当時の館内の観客の表情も鮮明に写っています。

僕たちは、かつてあった映画館の「あとがき」（=Afternote）を作っているんじゃないか。

前原美織　MAEHARA Miori

山口県下関市出身。1995年より、出張映写の会社に勤務。その後、九州の映画館でアルバイトを始め、10年の勤務ののち、同館の支配人に。2019年よりYCAMのスタッフに着任。映画の選定や関連イベントを企画している。

photo: 谷 康弘

志村信裕　SHIMURA Nobuhiro

1982年東京生まれ。2007年武蔵野美術大学大学院映像コース修了。秋吉台国際芸術村での滞在制作をきっかけに、13年から15年まで山口市を拠点にする。文化庁新進芸術家海外研修制度により、16年から18年までフランス・パリに滞在。身近な日用品や風景を題材にした映像インスタレーションから、近年では各地でのフィールドワークをもとに、ドキュメンタリーの手法を取り入れた映像作品を制作する。現在、千葉県を拠点に活動。

photo: 谷 康弘

「甦生の大山口」（1929年）

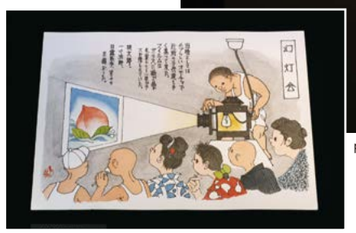
約100年前の山口市が記録された映画「甦生の大山口」を軸に構成。

志村　ほかにも貴重な資料が見つかっていて、展覧会の目玉のひとつになる、昭和4（1929）年に山口市で撮影された記録映画「甦生の大山口」です。この映像には昔の山口市の映画館、観光地や官公庁といった街の様々な風景が収められていて、そのフィルムが山口市役所に残っていたのです。およそ100年前の記録ですが、僕はこの映像を初めて全編見たときに、知らなかった過去が映し出されているように感じて、懐かしさを超えて新しさを覚えたんです。しかも山口町から山口市になった市制祝賀を記録するために制作されているので、山口市のはじまりが映像化されている。山口市の歴史を振り返る意味でも、展覧会ではこの映像を軸に構成しようとすぐに思いつきました。

前原　金竜館の創設者であった村藤金槌さんが、制作総指揮者、いまでいうプロデューサーとしてこの映像を制作しています。「甦生の大山口」を今回プロジェクターで展示できるように高画質でデジタル化しました。しっかり隅々まで見える画質で66分の全編を大きなスクリーンに投影し、上映展示します。当時の映画はまだ無声なので、この映像も音はありません。音がない分、色んなことを想像することができます。実際にこの映像の中はとても賑やかで、声や音が映像から聞こえてくるようです。

展覧会は、具体的にはどんな展示構成になるのでしょうか？

志村　映画館の歴史を古い時代からさかのぼって、現代へという時間軸で見せていく展示構成になっています。メディアテクノロジーを扱うYCAMでこの企画を実施する意味を考えると、山口市の映画館の歴史を扱いながらも、同時に映画館や映像メディアの歴史もたどるような展覧会にしたいと考えました。展示室に入ると、まずは、映写機の原型である明治時代の幻灯機から始まり、幻灯機を使って子どもたちが楽しんでいる様子が分かる徳見七郎さんの絵図を展示しています。次に芝居小屋の資料へと続いていきます。映画館の前身は芝居小屋で、幕間に「活動写真」（映画）を映していました。それがだんだん発展していき、常設の映画館になっていったという歴史があります。芝居小屋の資料に続いて、「甦生の大山口」の映像を展示しますが、会場の外からもパッと目につくような見せ方にしました。66分全編をずっと見る必要はなく、どのタイミングでどの角度から見ても楽しめるようになっています。



徳見七郎「幻灯会」（山口市歴史民俗資料館蔵）

前原　それから、戦後、映画館が一番多かった黄金期（昭和30年代）の資料を中心に、ポスターや映画館の写真などを展示します。これらは個人で保管されていたものを提供いただきました。珍しいところでは、映画看板製作に使っていた道具も。映画看板は、ポスターが主流になりなくなってしまうのですが、かつては映画を知らせるためのすごく重要なメディアで、看板絵師の仕事について知るきっかけにもなるのではないかと。

photo: 塩見浩介

展覧会の様子。写真中央にある壁には、リサーチ中に発見した映画館跡地に残る映写室の映写窓が再現され、壁の向こう側で上映している志村信裕の映像作品「Afternote」をのぞき見ることができる。

Afternote

志村　展覧会の後半には、本展のために制作した「Afternote」という60分の映像作品を映画館のようなスタイルで見てもらいます。これまでのリサーチで出会ってきた約20名のインタビュー映像、集めてきた映画館の記録資料で構成した映像作品です。インタビュー以外の要素としては、山口市内の街並みやちょうちん祭り、蛍など、山口ならではの風景が随所に出てくるので、現代の「甦生の大山口」としても見てもらえるのではないかと期待しています。また、ナレーションにも山口の歴史をふまえた演出をしているので、会場での楽しみにしてください。

ほかに映画館を体験できる工夫はありますか？

志村　映像作品「Afternote」では、開始冒頭に劇場用のブザーが鳴ります。リサーチ中に、ブザーだけがまだ鳴る映画館跡地があって、その音を聞いた瞬間、そこで映画を見た記憶がないのにタイムスリップしたみたいに懐かしい感じがしたんです。天井が高い大きな空間でブザーが鳴ると、原体験がなくても何かが始まる感じがするんだなって。そんな体験をこの展覧会に来てくださった方にもしていただきたいと思っています。

前原　あとは、郊外の映画館の跡地にぽつんと映写室だけが残っていて、映写技師さんが映画を投映していた映写窓もあり…。映写室丸ごとは持ってこれなかったので、その窓だけでも再現したくて、現地で計測して同じ大きさ、形の窓を作りました。ちょうどそこから志村さんの「Afternote」が見えるようになっています。ほかに、35mmフィルムがどれくらい重たいものなのか、持ち上げて体験してもらえるように、実際に使われていた映画のフィルムも展示しています。

結果的には街の歴史、家族の歴史をたどることになりました。

展覧会を通して考えたことはありますか？

志村　当初は、「山口市の映画館の歴史」というすごくローカルなことを扱っていることもあって、映像作品「Afternote」はほかの地域では公開しづらい地域限定の作品になってしまうのではないかと考えていました。でも、取材を続ければ続けるほど考え方が変わっていったんです。今回たくさんの方と出会い協力していただけたのは、映画や映画館が人を巻き込んでいくことができるメディアや場所だったから。そもそも映画というジャンルそのものが地域・時代を超える多様性があるので、山口市というローカルな視点からでも突き詰めていけば、国内だけでなく世界中と結びつくことができる、すごくグローバルな題材なんじゃないかと制作途中で気が付きました。「Afternote」はきっとほかの地域、国の人が見ても共感してもらえるような普遍性のある作品であり、展覧会になると信じています。

前原　今回のリサーチでは映画館の観客側と、映画館の運営側の両方の記憶と記録を追えることができてよかったと思います。映画館の歴史を調べる取材でしたが、結果的には街の歴史、その街に住む家族の歴史をたどることになりました。笑ったり、泣いたりしながら映画館にまつわるエピソードをたくさん聞かせていただきました。この展覧会を見ていただければ、また色々な思い出が蘇ると思います。新しい情報や、もしかしたら私たちが見つけることができなかった映画館も出てくるのではないかとドキドキしています。「Afternote」（あとがき）は永遠に続きそうですね。

金竜館（1991年）　photo: 吉見健太郎

YCAM開館20周年記念事業
展覧会
「Afternote 山口市 映画館の歴史」

開催中～2024年3月17日（日）
10:00～19:00
会場:山口情報芸術センター
スタジオB、2階ギャラリー
［料金］無料

関連企画

いずれも
会場:山口情報芸術センター　スタジオC
［料金］無料（申込不要）

古地図で楽しむ
―映画館の跡地、映画ロケ地探訪
2024年1月17日（水）　12:15～13:15
［講師］重田香澄（山口県文書館専門研究員）

35mmフィルムを楽しもう！映写技師レクチャー
2024年1月20日（土）　12:30～13:30
［講師］村岡由佳子（映写技師）

クロージングトーク
2024年3月17日（日）　14:00～15:00
［登壇者］志村信裕、石井草実（リサーチャー）
前原美織（YCAM）

わかる！キーワード

【甦生の大山口】　1929（昭和4）年の市制施行を記念して撮影された記録映画。山口市道場門前にあった映画館・金竜館の創設者であり経営者であった村藤金槌が総指揮を務めた。山口市の全景から始まり、山口市の名所、官公庁、学校、旅館、映画館等の街の様子が紹介される。市制祝賀活動写真として撮影後すぐに金竜館で上映され、大入り満席を記録した。

観た！聴いた！みんなのレビュー

◎音の迫力が映画のおもしろさ、エンターテインメント性を爆上げしてくれて素晴らしかった。（「YCAM爆音映画祭2023」より）
◎互いに尊敬し合い、言葉以前の感覚的なものの感動が伝わってきた。（特別企画展「草野心平と中原中也」より）
◎ポストトークでは舞台の背景を知ることができ、よりこの舞台を、そして障害者によるアートを知ることができた。（バック・トゥ・バック・シアター「影の獲物になる狩人」より）
◎個性の立ったDJが3人しっかり聞けておもしろい体験でした。個人的に「なべこ」さんのDJにゾクゾクしました。（「Audio Base Camp #2」より）

any通信

アーティストから聞いたこぼれ話、
映画や本の情報など、
旬のお便りを詰め込んで、
あなたのもとへお届けします。

大迫力のジャズアニメ映画!!

ⓒ2023 映画「BLUE GIANT」製作委員会　ⓒ2013 石塚真一／小学館

大ヒットを記録した映画「BLUE GIANT」が1月21日(日)に山口市民会館にて上映されます。人気コミックが原作の本作は、テナーサックス奏者の青年・宮本大が世界一のジャズプレーヤーを目指す物語。同世代の凄腕ピアニスト・沢辺雪祈、高校の同級生・玉田俊二と3人組バンド「JASS」を結成し、奮闘する姿を描く本格ジャズ映画です。上原ひろみをはじめ、日本を代表するジャズプレーヤーたちが演奏する大迫力のライブシーンにもご注目を！詳細は山口市民会館まで。

山口でつくる新しい学び

YCAMが山口市の教員や児童・生徒をはじめ、教育委員会、ファブラボ、研究者やクリエイターとともに取り組む、手作りの授業開発プロジェクト「未来の山口の授業 at School」。市内の小中学校で、メディア・テクノロジーの活用によって可能となる表現や創造性、好奇心を刺激する体験型の授業を設計しています。本展では、プロジェクトがスタートした2021年からこれまでに開発してきた「新しい授業」を紹介します。

展示の様子

未来の山口の授業 at School 成果展
開催日～2024年3月10日(日)
会場:山口情報芸術センター
コミュニティスペース
[料金]無料

4年ぶりにみんなで迎えた墓前祭

去る10月22日は中原中也の86回目の命日・中也忌でした。4年ぶりに「墓前祭」を開催し、中也のお墓に集った方々と爽やかな秋空の下、中也の詩「一つのメルヘン」を献詩、そのあと献花を行いました。そのほか、週末にかけて記念館の中庭で開催された山口県立大学の学生による「メイシ交換会」は、中也を知ってほしい・自身も知りたいという有志の学生の集まりで、多くの来館者が中也の好きな一節をもちより、参加しました。狐の足あととのコラボやYouTube配信など新たなイベントもあり、中也に思いを馳せるあたたかなイベントとなりました。

ARTIST VOICE アーティストボイス

坂口綱男
(写真家／著述業)

2022年の7～10月に中原中也記念館で開催された特別企画展「坂口安吾と中原中也―風と空と」。その関連企画で行われた、作家・坂口安吾の長男で、写真家・エッセイストの坂口綱男さんと、50数年前に坂口さんの家庭教師であったミヅマアートギャラリーの三潴末雄さんによる公開対談は大いに盛り上がりました。その様子を、坂口綱男さんご本人に教えていただきました。

坂口安吾と中原中也と三潴末雄と坂口綱男と

特別企画展「坂口安吾と中原中也―風と空と」において、三潴末雄氏と公開対談をするきっかけは、安吾の記念館に遺品の借用に来られていた中也記念館の学芸員との雑談が発端だ。三潴氏は、国語の成績が芳しくなかった作家の息子の家庭教師で、しかもなかなかのヤクザ先生だったという話をしたら、「それでは、是非に」となった。当日は、どれほどヤクザな先生かというところから話しは始まった。教えてくれたのは、学生運動のヘルメットによるセクトの見分け方から、ギリシャ哲学やカフカの不条理といった話まで実に雑多。しまいに私のベッドに寝ころんでマンガを読み、その間に指定箇所の自習をさせるという具合。だが中原中也への橋渡しはこのセンセイからだった。「骨」は、私に刺さって、今も残る。こんなセンセイとの対談は、ついに終着点を見つけることができないまま終了した。対談者当人も些か興が過ぎたと反省しながらも「安吾っぽくて、ファルスでいいじゃん」などと思った次第。こんな風に対談を楽しめたのは初体験だった。

坂口綱男　SAKAGUCHI Tsunao

日本写真家協会会員。「安吾 風の館」館長。1953年8月、群馬県桐生市に不覚にも作家・坂口安吾の長男として生まれる。78年より26歳でフリーのカメラマンとして広告、雑誌の写真を撮り始める。特にエディトリアル(雑誌)ではジャンルは問わず、文学に関係しないものなら何でも撮り続けている。

観た！聴いた！みんなのレビュー

◎こんなお芝居が見たかった！(木ノ下歌舞伎「勧進帳」より)
◎いつも語り口・切り口が世相を反映していて、同時に愛に満ちた視点、視線を感じさせていただいています。(「松元ヒロ・ソロライブ2023」より)
◎アーティストだけでなく、一般人もアートを表現できる企画に感動させられました。(「あそべる図書館―Speculative Library」より)
◎神田京子さんの講談にとても引き込まれて、聞き入りました。娘役のおはなさんの声がとても可愛い！(「第2回 わくわく寄席」より)

お先に試写しました

「走れ！ 走れ走れメロス」

(2023年／日本／53分／カラー)
[監督]折口慎一郎

全国各地の映画祭を席巻中の本作は演劇に初めて触れた島根の高校生4人と顧問の奮闘を追ったドキュメンタリーです。演劇を始めた男子高校生たちが、担任の亀尾佳宏とともに初舞台に選んだ題材は、太宰治の名作「走れメロス」。意気揚々と高校演劇の地区大会に挑戦するが…。高校生と接する機会があまりない人にとって、「いったい今の高校生は何を考えているのか？」「未来に対して明るい展望はあるのか？」など、聞きたいことは山ほどあるのではないでしょうか。実は私もその一人です。本作はそんな私たち大人が今観るべき作品です。大人の心配とは裏腹に、もがきながらも前進する彼らのストーリーは予想を超える展開に転じます。先生との関係からも彼らの成長が伺え、心が熱くなりました。事実は小説より奇なり、と言いますが、事実はフィクション映画より奇なり。だからドキュメンタリーはおもしろい。卒業式を控えた彼らを追った続編「メロスたち」も同時期に上映予定です。

前原美織(YCAMシネマスタッフ)

2024年3月8日(金)～17日(日)
※上映開始時間等はお問い合わせください。
会場:山口情報芸術センター　スタジオC
[料金]一般 1,300円
any会員・25歳以下・特別割引 800円

【あらすじ】新型コロナウイルス感染症の影響が残る2021年夏、島根県にある最も小さな高校、三刀屋高校掛合分校で、初めて演劇に触れた高校生4人を追ったドキュメンタリー映画。それぞれが抱える劣等感と向き合いながら、演劇に魅せられていく彼らが、担任の亀尾佳宏とともに初舞台に選んだ題材は、太宰治の名作「走れメロス」だった。筋書き通りにいかない彼らの物語は、誰も予想しなかった結末へと転がりだす。

映画と

書籍『昭和の映画絵看板』

(2021年／TWO VIRGINS社／
企画:喜田奈津子、監修:岡田秀則)

かつてはどの街にもあった映画館。ポスター誕生以前は、職人絵師たちが描いた映画絵看板が映画館や街を華やかに飾っていました。本書では、大阪ミナミの劇場街の看板を主に手掛けていた工房「不二工芸」が残した大量の記録写真をもとに、昭和20～50年代までの映画絵看板の写真を映画の解説とともに紹介。元看板絵師たちのインタビューほか、映画絵看板にまつわる様々を集約した1冊。YCAMで現在開催中の展覧会「Afternote 山口市 映画館の歴史」(～3/17)でも、看板絵師が残した道具を見ることができます。

読書の窓

『楽園とは探偵の不在なり』
斜線堂有紀 著
2020年／早川書房

突如降臨した天使が2人以上殺した人間を地獄へ引きずりこむようになった世界。探偵の青岸は大富豪の常木王凱に招かれた島で、ありえないはずの連続殺人事件に巻き込まれる。絶対的天使の法則をすり抜け、誰が、何のために殺人を犯しているのか。天使といえば正義や慈愛を象徴する美しいイメージだが、本作の“天使”は鏡面のような顔とひどい猫背で空を飛び、人間を業火へ堕とす機械的存在である。しかし“天使”がいれば神や天国の有無も気になるもので、この世界でも宗教的意見が紛糾している。特殊な世界観はもちろんわくわくするが、なにより“天使”に曰くをもつ彼らの複雑な感情の描写が大好きだ。ドラマティックであり、ファンタジーであり、探偵へのロマンが詰まった本格ミステリ。ぜひ読んでほしい。

金子沙織(山口市立中央図書館　職員)

any music

Vulfmon
『Nice to you』

新年を迎え爽やかな気分で聴きたい曲

Vulfmon(ヴォルフモン)はLAのミニマル・ファンクバンドVulfpeck(ヴルフペック)の中心人物、ジャック・ストラットンによるソロ名義。Vulfpeckは驚異的な才能を持つコアメンバー4名のほかに、様々なアーティストが流動的に関わり、多用な音楽を発表している。そのベースにはサスティナビリティ(持続可能性)という思想があり、バンドを長く続けていくために、メンバーを拘束せず、友好的で継続的に音楽を制作できるかを考えリリースを続けている。そんなバンドのメンバーによるこの楽曲は相手に見返りを求めない親切さを、明るいコード進行とリズムに乗せ軽快に音楽が進んでいく。新たな年明けに聴きたい爽やかな曲。

中上淳二(YCAM音響スタッフ)

観た！聴いた！みんなのレビュー

◎あらためて読み返してみようと感じた。(テーマ展示「詩集『山羊の歌』」より)
◎多くの人と話をしたり聞いたりしたことで、賛否両論ありの多方面の意見を知ることができた。(「YCAMオープンラボ2023」より)
◎「型」あってこその自由なのかな、と思いました。(企画展Ⅱ「中也と短歌」より)
◎映画をより楽しむための知識も増えるので、毎年楽しみです！(「YCAM爆音映画祭2023」より)

山口情報芸術センター［YCAM］

https://www.ycam.jp/

あそべる図書館—Speculative Library

開催中～2024年2月25日（日）　10:00～19:00
会場：ホワイエ & 2Fギャラリー

ともに学び、ともにあそぼう

ホワイエの真ん中に本の貸し出しを行わない新しい“図書館”が登場!? 竹のドームが目印です。誰もが利用可能で、読書やミーティングなど自由に利用することができます。さて“図書館”と聞くと、静かに本を読んだり、勉強したり…そんなイメージですが、ここでは大いにあそんで話してください!! 現在開催中の「あそべる図書館—Speculative Library」には、来場者同士の対話を促す7つのプログラムが用意されていて、価値観や知見が共有され、蓄積されていきます。トピックは山口市にまつわることや個人的な悩み、社会問題まで様々。気軽に自分の「知識」「思い出」「アイデア」を記録したり、共有したりしてみませんか? あなたの知見が、誰かの新しいアイデアや知恵を生み出すきっかけになるかも。

「みんなで作ろう! サイン編」ワークショップ開催の様子
photo: ヨシガカズマ

わたしはココに注目する!
この展覧会は2021年に始まった、地域や市民のための学びの場としてのアートセンターの役割を再考する試み「オルタナティブ・エデュケーション」の成果として開催します。

料金 ▌ 無料

イベントレポート

木ノ下歌舞伎「勧進帳」

歌舞伎演目を現代劇として上演するカンパニー・木ノ下歌舞伎による舞台「勧進帳」を、10月に開催。街道に見立てられた横長の白いステージ上で、鎌倉幕府から追われる義経一行と、行く手を阻む関所の役人・富樫らの攻防戦が繰り広げられました。山伏に扮した弁慶と、扮装を見破るため執拗に迫る富樫との緊迫感溢れるやり取りや、帽子を目深に被り後ろに控える義経の気品漂う存在感、歌舞伎を彷彿とさせる形式美など、まさに現代における古典の格好良さと面白さがたっぷり! 一人二役で演じる義経の家臣役と富樫の部下（番卒）役4人は、場面によって立場が入れ替わりながら舞台を縦横無尽に動き回り、ラップを歌ったり、三味線や鼓の音を声で表現したりと八面六臂の大活躍で舞台を盛り上げます。さらには、劇団主宰の木ノ下裕一によるワークショップやアフタートーク、観客同士で感想を共有するアフターアワーカフェなど充実の関連企画も。今回の公演では、障がい者向けの字幕機の提供や音声ガイドも実施され、より幅広い方に観劇をお楽しみいただける公演となりました。

photo: 細野晋司　提供: 東京芸術劇場

YCAM解体

YCAM ぐるぐるラジオ

公開収録の様子　photo: 塩見浩介

「YCAMぐるぐるラジオ」は2022年から放送を開始しているインターネットラジオ番組。YCAMスタッフがナビゲーターとなり、様々なクリエイターらをゲストに迎え、インタビューをお届けするほか、リスナーやゲストから寄せられるYCAMへの疑問など、色々な質問やお悩みを一緒に考えています。毎月の番組収録を、今年度はYCAM館内での公開イベントとして実施。11月からは現在開催中の「あそべる図書館」のなかにあるラジオブースを使って収録しています。ぜひ次の公開日をチェックして、様子を見にYCAMへ! お悩みや番組へのメッセージも随時募集しています。放送はSpotifyで聴取できますよ。

mini PICK UP!

展覧会「Afternote」関連上映

開催中～2024年3月17日（日）
会場：山口情報芸術センター スタジオC
※上映時間等の詳細はお問合せください。

「流離の岸」 ©日活

山口市内にかつて存在していた映画館の軌跡を巡る展覧会「Afternote 山口市 映画館の歴史」。その関連上映として、山口市で初めて映画の撮影が行われた「流離の岸」をはじめ、山口県内がロケ地となった「集金旅行」「愛の賛歌」など、当時の山口の風景が見てとれる作品をラインナップ。また、下関市出身の田中絹代監督作品や、山口ゆかりのドキュメンタリー映画「ふたりの桃源郷」、展覧会の参加アーティストである志村信裕が、山口県の離島・見島で制作した映像作品「見島牛」も上映します。

［料金（当日券のみ）］一般1,300円 ほか

観た！聴いた！みんなのレビュー
◎蛙のイメージが強かったのですが、今回は空のイメージが残りました。（特別企画展「草野心平と中原中也」より）
◎人情あふれるネタが多く、最後「お母さん」を偲んで叫んでいたところで、涙が出そうになった。（「松元ヒロ・ソロライブ2023」より）
◎寄席囃子の説明が良かった。生のお囃子はいいですね。（「第2回 わくわく寄席」より）
◎中也の短歌一首に投票する企画もとてもおもしろいと思いました。（企画展Ⅱ「中也と短歌」より）

中原中也記念館

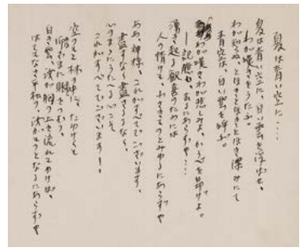
https://www.chuyakan.jp/

第21回テーマ展示
空の歌

2024年2月15日（木）～2025年2月11日（火・祝） ※特別企画展期間は除く

中也がうたう「空」とは?

中原中也の詩の中には、「空」が多く登場します。空に向けて自らの思いを懺悔したり、神を呼んだり、自己の苦しみを嘆くなど、中也にとって「空」とは、人知を超えた、崇高なものの象徴でした。また、中也は自然現象に自らの心情を重ねて表現することが多く、天候や時の流れとともに、「青空」「曇天」「茜の空」「紺青の空」など、表情豊かな空の情景が表現されています。「空」には、死者の魂や精霊、「黒い旗」といった様々なイメージが重ねられ、詩的なイマジネーションの源でもありました。本展では、中也の詩の重要なモチーフである「空」について、様々な視点から紹介します。


「夏は青い空に……」（「ノート小年時」より）

わたしはココに注目する!
「ゆふがた、空の下で、身一点に感じられれば、万事に於て文句はないのだ。」（「いのちの声」）、「空、演壇に立ちあがる。」（「凄じき黄昏」）、「あゝ　空の奥、空の奥。」（「憔悴」）など、空の詩には魅力的なフレーズがいっぱい。ぜひお楽しみください!

入館料 ▌ 一般 330円（275円）／大学生 220円（165円）
※あわせて企画展もご覧いただけます。　※18歳以下、70歳以上無料　※（　）内は20人以上の団体料金

中也検定 これであなたも中也通?!

中原中也「新文芸日記」

Q. 中原中也が最初に詩集刊行を思い立ったのは1927年、中也が20歳の頃です。当時の日記（「新文芸日記」）に、題名を思案したと思われるメモが残っています。そのうちの1案は、空を愛し、追い求めた詩人ならではの、ユニークな題名なのですが、それはどれでしょうか。

1 空の餓鬼
2 空の栄光
3 空の修羅

答えは14ページ

中也を味わう

更くる夜

内海誓一郎に

毎晩々々、夜が更けると、近所の湯屋の
　水汲む音がきこえます。
流された残り湯が湯気となつて立ち、
　昔ながらの真つ黒い武蔵野の夜です。
おつとり霧も立罩（こ）めて
　その上に月が明るみます、
と、犬の遠吠がします。

その頃です、僕が囲炉裏（いろり）の前で、
　あえかな夢をみますのは。
随分……今では損はれてはゐるものの
　今でもやさしい心があつて、
こんな晩ではそれが徐（しよ）かに呟（つぶや）きだすのを、
　感謝にみちて聴きいるのです、
感謝にみちて聴きいるのです。

屋外展示の様子

【解説コメント】
今年度の屋外展示のテーマは「友への詩」。後期に展示中の3篇から、「更くる夜」を紹介します。本作は「白痴群」第6号（1930年4月）に発表され、のちに詩集『山羊の歌』に収録されました。内海誓一郎は音楽集団「スルヤ」に所属していた作曲家で、中也の詩を歌詞に用いた歌曲「帰郷」「失せし希望」を制作した人物です。この作品は中也が内海への謝意を表すために贈ったものと考えられます。静かに深まりゆく夜、〈僕〉は自らの、または他者の心に向き合い、その奥にある〈やさしい心〉の呟きを聴きます。〈水汲む音〉〈犬の遠吠〉といった聴覚を呼び覚ます言葉が効果的に使われ、心の声に耳を澄ます〈僕〉の行為へとつながっていきますが、そこには音楽家である内海に対する意識が垣間見えます。

観た！聴いた！みんなのレビュー
◎木ノ下歌舞伎のほかの演目や色んな劇団、舞台も見たくなりました。（木ノ下歌舞伎「勧進帳」より）
◎刊行に到るまでの苦労がたくさんあったことに驚きました。（テーマ展示「詩集「山羊の歌」」より）
◎音楽の幅の広さは無限なのかもしれない。不思議な世界観を体感した。（「Audio Base Camp #2」より）
◎「あなたも知的障害者になる」という言葉にドキッとした。（バック・トゥ・バック・シアター「影の獲物になる狩人」より）

先行チケット発売情報
早チケ
any会員先行予約 3月2日

辻井伸行日本ツアー《楽興の時》

2024年6月1日(土)
14:00開演(13:15開場)
会場:山口市民会館　大ホール

© Yuji Hori

世界中で高い評価を受ける、国内でも人気のピアニスト辻井伸行によるソロ・リサイタルツアー。前半は辻井の美しいピアノのハーモニーがホールに響き渡るバッハのフランス組曲とショパンの名作「4つの即興曲」を披露し、後半は2023年に生誕150年の記念イヤーを迎えたラフマニノフの代表作のひとつ「楽興の時」全曲に初挑戦するという意欲的なプログラムで構成されます。世界の音楽ファンを熱狂させ続ける、辻井ならではの生演奏による一期一会の感動体験を、ぜひ会場でお楽しみください。

[チケット情報]
any会員先行　3月2日(土)～
一般発売　3月16日(土)～
[料金]全席指定 ※any会員割引あり
S席 7,800円／ A席 6,800円

イベントレポート

第2回 わくわく寄席

photo: 谷 康弘

11月5日、山口市民会館小ホールに寄席会場が設けられ、日本の芸能をたっぷりと楽しむ午後を過ごしました。通常舞台袖で演奏される「寄席囃子(はやし)」の解説と実演で幕が開き、三遊亭げん馬、雷門音助による落語が続きます。前半のトリに、山口在住の講談師・神田京子が「大名花屋」をしっかりと聴かせます。仲入り後は、林家花の見事な紙切り芸で会場が一層にぎやかに。場が温まったところで、三笑亭夢丸が落語「代り目」で笑いを誘います。最後に、3人の寄席踊りが披露され、観客の手拍子とともに熱く盛り上がったところでお開きとなりました。

山口市民会館

http://www.yamaguchi-civichall.com/

小林愛実ピアノ・リサイタル

2024年3月10日(日)　14:00開演(13:00開場)
会場:大ホール

小林愛実、等身大の音色を山口で

photo: Makoto Nakagawa

山口県宇部市出身のピアニスト・小林愛実。2021年のショパン国際ピアノコンクールでの第4位入賞で、国際的な活躍が期待できる若手の日本人ピアニストとして注目を集めました。幼少期から「天才少女」と呼ばれながら華々しいキャリアを着実に重ねてきた小林。実は17歳からの3年間は演奏する意味を見出せず「ピアノをやめてしまいたい」と思うほどのスランプも経験したのだとか。しかし2014年のショパン国際ピアノコンクールへの挑戦を機に再びピアノと向き合い、自分は本当にピアノが好きなのだと改めて気づくことができたそう。今回のリサイタルでは、演奏家人生にも大きく影響したであろうショパンの作品も演奏されます。経験を重ねながら進化を続ける音色を、どうぞお楽しみに。

わたしはココに注目する!

「私は私。自分らしく、作曲家や作品に真摯に向き合い、演奏家であり続けたい」という小林愛実さん。ピアノとともに歩み、苦しいことも嬉しいことも様々な感情を重ねてきた等身大の演奏を聞かせてくれることでしょう。

チケット情報 | 発売中
料金 | 全席指定　前売　一般 3,500円／any会員 3,000円／学生 2,000円
[曲目]シューベルト「即興曲集D935 op.142」／モーツァルト「幻想曲 二短調 k.397」／シューマン「子供の情景 op.15」ほか

小心ズ「ミスしゃっくりの幸せな一日」

2024年3月16日(土)　18:30開演
会場:小ホール

何気ない日常が愛おしくなる! ゆかいなサイレントコメディ

©Masami Suzuki.

「ミスしゃっくりの幸せな一日」は、無言劇をベースとした、歌、踊り、ボディーパーカッションなどの身体表現によるコミカルな舞台作品です。ミスしゃっくりは、ひとりで暮らす一風変わった気高きご婦人。その一日は奇妙な音やメロディにあふれ、退屈している暇もない。今日もまた、彼女のゆかいで美しい冒険の一日が始まります。ミスしゃっくりの手にかかれば、歯磨きやトイレ、日常の何気ない瞬間がクスリと笑える一コマに変わっていきます。見終わった後は、とりとめのない日々のあれこれも愛おしく感じられるはず。ポップでカラフルな衣裳や楽しい小道具にもご注目。国籍や年齢、ハンディキャップの有無も、全てのボーダーを超えてみんなで一緒に冒険に出かけよう♪

わたしはココに注目する!

2022年6月の to R mansion公演「にんぎょひめ」では、“ばあや”として一躍注目を集めたヤノミ。この度ご自身が主宰の小心ズとして来山。世界が絶賛するヤノミのフィジカル・コメディ(身体表現を主とした喜劇)をご堪能あれ!
澤 直子(認定NPO法人こどもステーション山口)

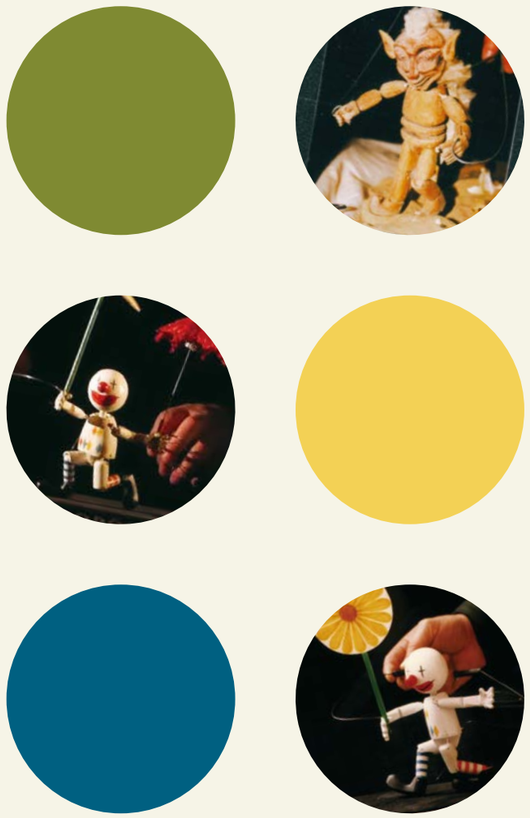
チケット情報 | 1月13日(土)～
料金 | 全席自由　前売　一般 3,500円／any会員 3,000円／ 25歳以下 2,700円
当日　一般 4,000円／ 25歳以下 3,200円
※4歳以上有料

■特に記載のない場合、any会員割引は1会員4枚まで。
■いずれの公演も当日券は会員割引の対象外となります。
■特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
■特に記載のない場合、未就学児入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

ハンガリーから届いた小さな人形劇「ミクロポディウム」

MIKROPÓDIUM

この冬、クリエイティブ・スペース赤れんがにやってくるのは、
まるで生きているかのような精緻な動きで
世界中の子どもたち、大人たちを魅了してきた
人形劇「ミクロポディウム」。
ハンガリーの人形遣いが、小さな人形たちに魔法をかける!



ミクロポディウム(MIKROPÓDIUM)とは、ハンガリー(マジャール)語で「小さな舞台」

ハンガリー出身の人形遣いであるレナート・オンドラシュは、1995年に、独特な人形と操作方法によるひとり人形芝居であるミクロポディウム(MIKROPÓDIUM)を創立。以降、国立ブダペスト人形劇場に所属するかたわら、常に「小さな人形」の可能性を探求し続けています。手に乗るほどの小さな人形たちに命を吹き込み、精緻な動きで多くの観衆を虜に。世界各地での公演はもとより、日本にも10回以上来日。全国で上演を重ね、高い評価を得ています。

超絶技巧の人形遣い、レナート・オンドラシュ

レナート・オンドラシュ

ミクロポディウムをこれまで日本に何度も招聘してきたのは、長野を拠点に活動する人形芝居 燕屋のくすのき燕。なぜミクロポディウムを日本に? その出会いは彼自身も招聘された1998年のブダペストでの国際フェスティバル。街頭で行われたレナートの人形芝居を初めて観たとき、「その人形を遣う技術の高さに圧倒された」のだといいます。けれども、それ以上に魅了されたのは、演目と演目の間の観客からの拍手を受けて見せるレナートの笑顔。超絶技巧の遣い手にも関わらず、おごることなく常に謙虚。その笑顔からは「楽しんでくれてありがとう」、そんな想いが伝わってくるのだとか。

1日目は親子向け、2日目は大人向け。それぞれの楽しみ方は?

1日目は、ぜひ親子で鑑賞してください。小さなお子さんから楽しめる構成になっています。上演する「STOP!」は、3～5分の小さな5つの作品を上演。セリフは一切なく、音楽にのせて、小さな人形たちがレナートの精緻な操作テクニックによって可憐に動き出します。同時上演するのは人形芝居 燕屋による肩掛け人形芝居「ねずみのすもう」。海外と日本の両方の人形劇を体験できる日になっています。
2日目は、大人向けのプログラム。中学生以上を対象にミクロポディウムの作品を2本上演します。前日と同じ「STOP!」に加えて、2本のロウソクに照らし出された50cm×40cmの砂地の箱庭を舞台にした小さな小さな人形劇「CON ANIMA」を上演。小さな人形がさらに小さな人形を操るという超絶技巧に驚かされるとともに、幻想的で哲学的なイメージに圧倒されます。限定50名の濃密な人形劇の世界を味わってください。

「公文協アートキャラバン事業 劇場へ行こう3」参加事業

ハンガリーの小さな舞台 ミクロポディウム人形劇

■ **2024年1月25日(木)　18:00開演**(30分前開場)
「STOP!」+ 肩掛け人形芝居「ねずみのすもう」
[料金]全席自由 限定100席
おとな 2,000円／any会員・障がい者割引 1,700円
こども(3歳～高校生) 500円

■ **2024年1月26日(金)　18:30開演**(30分前開場)
「STOP!」+「CON ANIMA」
[料金]全席自由 限定50席
おとな 2,000円／any会員・障がい者割引 1,700円／中高生 500円

会場:クリエイティブ・スペース赤れんが　ホールⅡ

関連企画
ワークショップ「人形をつくって遊ぼう!」
2024年1月20日(土)・21日(日)　各日10:30～／14:00～
会場:山口情報芸術センター　2F多目的室
[講師]クコノッコ(佐々木範子、倉田美絵)　[参加費]無料
※内容・申込方法等の詳細は、山口市文化振興財団のwebサイトをご覧ください。

EVENT CALENDAR 2024.1–3

1 January　2 February　3 March

※掲載内容は2023年12月1日現在のものです。変更の場合がありますので、ご了承ください。

山口情報芸術センター
[YCAM]
https://www.ycam.jp/
※年末年始のお休み12／29～1／3

開催中 ～25
あそべる図書館―Speculative Library
（本誌p.10参照）

開催中 ～10
未来の山口の授業 at School 成果展
（本誌p.8参照）

開催中 ～17
展覧会「Afternote 山口市 映画館の歴史」
（本誌p.2～7参照）

山口市民会館
http://www.yamaguchi-civichall.com/
※年末年始のお休み12／29～1／3

20 第27回 ニューイヤーバンド フェスティバル2024

21 上映会「BLUE GIANT」（本誌p.8参照）

10 小林愛実 ピアノ・リサイタル（本誌p.12参照）

16 小心ズ「ミスしゃっくりの幸せな一日」（本誌p.12参照）

20 第51回市民コンサート

中原中也記念館
https://www.chuyakan.jp/
※年末年始のお休み12／29～1／3

開催中 ～12
第20回テーマ展示
詩集『山羊の歌』

15 ～2025／2／11
第21回テーマ展示
空の歌（本誌p.11参照）

開催中 ～4／14
企画展Ⅱ
中也と短歌

26 中原中也を読む会

23 中原中也を読む会
会場：山口情報芸術センター

22 中原中也を読む会

その他
（クリエイティブ・スペース赤れんが）
山口市中河原町5-12

25 26 ミクロボディウム人形劇（本誌p.13参照）
※1/20、21　関連ワークショップあり

［マーク説明］ 体験する　参加する　聴く　観る

INFORMATION

■公演チケットのお求めについて
山口市文化振興財団が主催・共催する公演チケットは以下の方法にてご予約・ご購入ください。

予約方法

インターネット　山口市文化振興財団ホームページ（24時間受付）
https://www.ycfcp.or.jp/
※any会員の方は先行予約初日の10:00より、一般の方はプレイガイド発売日の10:00より受付開始。

電話　チケットインフォメーション（10:00～19:00　※火曜休館・祝日の場合は翌日、ほか臨時休館日あり）
TEL. 083-920-6111

窓口　チケットインフォメーション（10:00～19:00　※火曜休館・祝日の場合は翌日、ほか臨時休館日あり）
山口情報芸術センター

支払方法

クレジットカード　インターネットでチケット予約された際に利用いただけます。（窓口でも利用いただけるようになりました）
チケットのお受け取りはお近くのセブンイレブンまたは山口情報芸術センターにお越しください。

セブンイレブン　インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。
お近くのセブンイレブンでお支払いいただけます。チケットはその場でお受け取りください。

窓口　※上記予約方法「窓口」参照

■託児サービスについて
山口市文化振興財団では
託児サービスを行っています。
※おもちゃ、おむつ、着替え等必要なものはご持参ください。
　お子様の食事は事前に済ませておいてください。

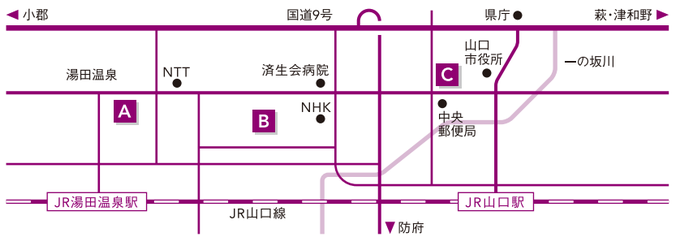
公演開催時
［対象］0才（6カ月）以上
［料金］1人につき700円、
　　2人目以降は1人につき500円
［時間］開演の30分前から終演後30分まで
［申込方法］公演日の1週間前までに左記チケットインフォメーションまたは山口情報芸術センターにてお申し込みください。
※公演によっては行わない場合もございます。
　事前にお問い合わせください。

山口情報芸術センター　キッズスペース
［対象］1才以上
［料金］1人につき30分200円
［時間］13:00～17:00　1回2時間まで
　（山口市立中央図書館休館日を除く）
［申込方法］当日、山口情報芸術センターにてお申し込みください。満員の際は順番制となります。

any（エニー）会員募集!
※入会方法等、詳しくはお問い合わせください。

any会員は、山口情報芸術センターや山口市民会館などで行われる財団主催・共催の公演や展示、ワークショップ等の情報をいち早くお知らせし、楽しんでいただくための友の会です。公演のチケットが一般の方よりも安く、早く購入できるなどの特典があります。

［年会費］1,500円+入会金500円　※会員期間内に更新される場合、入会金は不要です。
［会員期間］入会日から翌年の入会月末まで
［会員特典］チケットの先行予約および割引購入（公演によっては適用されないものもあります）、
　　情報誌の無料送付、YCAMシネマ・中原中也記念館招待券プレゼントなど



公益財団法人
山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion
〒753-0075　山口市中園町7-7（山口情報芸術センター内）
TEL. 083-901-2222 ／ FAX. 083-901-2216
https://www.ycfcp.or.jp/　zaidan-info@ycfcp.or.jp

編集後記
気兼ねなくあちこちに出かけることができるようになりました。我慢していた旅にうきうき。次はどこに行こうかな。[M.D]
個人的にもとても楽しみにしていた木ノ下歌舞伎「勧進帳」の舞台。観た方が何人も熱のこもった感想を直接伝えてくれました。この上なく嬉しい瞬間ですね! [K.A]
とにかく忙しく、思った以上に映画も舞台も展覧会も行けないまま終わってしまいました…（涙）。2024年はタイムマネジメントするぞ～！[Y.I]

A 中原中也記念館
〒753-0056　山口市湯田温泉1-11-21
TEL. 083-932-6430 ／ FAX. 083-932-6431
［開館時間］9:00～18:00（入館は17:30まで）【5～10月】
　　9:00～17:00（入館は16:30まで）【11～4月】
［休館日］月曜（祝日の場合は翌日）、毎月最終火曜（変更あり）、年末年始
https://www.chuyakan.jp/

B 山口情報芸術センター［YCAM］
〒753-0075　山口市中園町7-7
TEL. 083-901-2222 ／ FAX. 083-901-2216
［開館時間］10:00～20:00（夜間イベントのある日は22:00まで）
［休館日］火曜（祝日の場合は翌日）、年末年始、臨時休館日
https://www.ycam.jp/　information@ycam.jp

C 山口市民会館
〒753-0074　山口市中央2-5-1
TEL. 083-923-1000 ／ FAX. 083-928-8488
［開館時間］8:30～17:15　［休館日］年末年始
http://www.yamaguchi-civichall.com/

検定 答え 中也
A. 1 空の餓鬼
（空に対する強い思い入れが伝わってきます。題名案は他に「詩精神」「無題詩集」「孤独の底」がありました。）

本誌掲載の企画について、今後の情勢により開催が変更または中止になる場合がございます。最新情報は各施設のwebサイト等にてご確認ください。

金龍館
KINRYUKAN
FIRST NATIONAL PICTURES
映画
YAMAGUCHI TOEI
山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion
山口大の生麩
市口山
作製館龍金